

『おはなしのくに』を活用して、一年生に昔話を紹介しよう！

川崎市立西有馬小学校 教諭 福山 里加

小学校2年生 国語
おはなしのくに

日本や世界の名作を、一流の語り手が一人芝居で表情豊かに演じる番組。番組を絵本形式にした、読む楽しさを味わう「読んでみよう！」(デジタル絵本)や、関連した物語を紹介する「おすすめ本」で、子ども達の読書意欲を育むこともできる。

【授業デザイン】

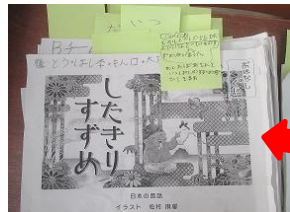
2年国語「三まいのおふだ」(光村図書)
～1年生に昔話を紹介しよう！～(6時間)

番組視聴

おはなしのくに「三まいのおふだ」を視聴し、心に残った場面をペープサート劇にして交流する。

1年生へ紹介する昔話を選ぶ

- 日本「したきりすずめ」「かさじぞう」
- 外国「ジャックと豆の木」「北風と太陽」「読んでみよう！」を印刷して活用。「いつ、山場、好きな場面」について、紹介ページに付箋を貼って構成する。



番組視聴(1年生と一緒に)

おはなしのくに「三まいのおふだ」を視聴し、心に残った場面についてペア・全体で交流する。



番組WEBサイトのデジタル絵本をタブレットで紹介

タブレットで、伝えたい部分を拡大しながら紹介する。1年生は4作品聞けるようにグループでローテーション。



1年生に昔話を楽しんでもらう場を設定

「紹介された4つのお話を視聴できる場」「図書館にある日本昔話・外国の昔話を集めた場」など4つのコーナーを設定。1年生には自由に昔話を楽しんでもらう。



【授業の概要】

本単元では、1年生の時に『おはなしのくに』を視聴し昔話に親しんできた2年生が、事前アンケートや1年担任からの要望も取り入れ、1年生におすすめのお話を紹介した。初めて昔話に触れる子や文字が苦手な子がいることを考慮し、グループ1台のタブレットを使い、番組WEBサイトにあるデジタル絵本の挿絵を拡大しながら紹介することで、全ての1年生に「もっと昔話を読んでみたい」と思ってもらうことができた。紹介後は、気になった昔話を自由にタブレットで視聴したり、学校図書館の本を読んだりして、昔話を楽しんだ。

【今回の実践における番組効果】

2. 新鮮な経験を与えて、豊かに想像力や学習への興味を育てる。
3. 事象の関係、構造、過程などを要約した形で示し、事象の全体的な理解を容易にする。
4. 児童の思考を広げ、学習への意欲を向上させる。

【授業デザインの工夫】

①1年担任からの手紙と事前アンケート

「三まいのおふだ」の授業後、1年担任から「ぜひ1年生に昔話を紹介してほしい」という手紙をもらい意欲満々の中スタートした。1年生への事前アンケートから、知らない子が多かったお話の中から4作品に絞り、紹介したいお話ごとにグループを作った。

②タブレット×番組WEBサイトのデジタル絵本

番組WEBサイトでは、番組を絵本形式にした「読んでみよう！」(デジタル絵本)がある。そのページを活用して、既習である「いつ、誰、山場、好きな場面」について、関係する挿絵を選んで、伝えたい部分をタブレットで拡大しながら紹介した。

③昔話を楽しめる多様な場

紹介後、1年生が昔話を読める場として4つのコーナーを設けた。「紹介された4つのお話をタブレットで視聴できる場」「紹介された4つのお話を絵本で読める場(デジタル絵本を印刷)」「図書館にある日本昔話・外国の昔話を集めた場」「図書館の昔話コーナーから自由に本を選んで読める場」これらに2年生が分かれ、必要に応じて読み聞かせをしたりレファレンスをしたりした。多様な場を設けたことで、どの子も没頭して昔話を楽しむ姿が見られた。

【成果と課題】

番組を一齐視聴するだけでなく、グループごとにコンテンツ「読んでみよう！」を使ってタブレットで紹介する活動を行った。伝えたい部分を明確にして、紹介文の構成を話し合いながら、国語のねらいである「好きな場面について話す」ことが達成できた。授業後、1年生に行った事後アンケートによると、すべての子が「もっと昔話を読んでみたい」と回答していた。読書経験が様々であり、昔話に馴染みのない1年生に対して、『おはなしのくに』を使った紹介は、全ての子が昔話に対して興味をもてる導入となった。しかし、「読んでみよう！」に紹介したい挿絵がない場合もあり、図書館の絵本を併用するグループもあった。環境が整えば、動画を使った紹介の仕方にも取り組みたい。